



上記赤丸部分が汽笛の設置位置



「悲劇の汽笛」と8620形蒸気機関車（事故車両と同機種）

昭和20（1945）年9月16日、枕崎台風の豪雨により因美線津山行き701列車、鳥取発4時50分、用瀬発5時28分、用瀬〜因幡社間の線路流出により走行中の蒸気機関車「48634号」が千代川に転落する大惨事が発生しました。脱線した客車は線路上に残り乗客は無事であったものの乗務員2名が千代川の濁流にのみこまれ行方不明となりました。事故後、引き上げられた車両（48634号）は翌年（昭和21年）には米子の後藤工場で解体され、その際、蒸気機関車から取り外された汽笛は遺族に寄贈されました。

事故から半世紀以上が経過し、この「悲劇の汽笛」は地元の国鉄関係者の加賀田保氏（90歳）が保管されていましたが、この度、ご縁があり当博物館が譲り受け展示紹介する運びとなりました。

この悲しくも貴重な品を大切に保管し、汽笛にこめられた事故の教訓を皆さまへお伝えしていきます。

## しゅっぱっぱ便り



「悲劇の汽笛」  
蒸気機関車の叫びの音が伝えるもの

～第20号～

【コンテンツ】  
○悲劇の汽笛  
○紹介コーナー

## 展示車両紹介（ピンク新幹線）

今回紹介するピンク新幹線は、ミニSL乗車体験においてミニSLが走行停止した場合に代行運行する、山根館長手作りのオリジナル電車です。「ピンク蒸気機関車が実在するならば、やずミニSL博物館では新幹線をピンク色に」と冗談から誕生した1両です。

最近では機関士の腕前と車両整備が行き届きめったに運行することはないようですが、ドクターイエローならぬ、「ラブリーピンク」とでもお呼びください。



「ミニSL承り」ご家庭にあるミニSLを引き取らせていただきます。

当博物館では、ミニSLをはじめ鉄道関係資料（品物）の収集活動も行っています。

特に、ミニSLはコレクターの思い出の品ではあるけどご家族にとっては、扱いが分からなくて大変という事もしばしば。状態にもよりますが、当博物館がお引き受けをし走行可能な状態へ整備をしています。一度、当博物館に御相談ください。

写真のミニSLは当博物館が再生した車両で、展示品として走行車両として活躍しています。



C12形201号



C11形157号

## やずミニSL博物館（やずぽっぱ）

〒680-0408 鳥取県八頭郡八頭町西谷 竹林公園内

TEL：0858-71-0032 FAX：0858-71-0432

E-mail：yazuminisl@yahoo.co.jp

開館時期：3月1日から11月30日

開館時間：10時から15時（土日・祝日は16時迄）

乗車体験は10時から15時まで

入館料：高校生以上200円、乗車体験料100円/回